

“みんな”でつくるモバイルキッチン

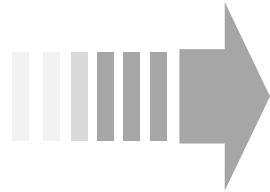
仙台高等専門学校名取キャンパス

(加藤春奈 坂口大洋 永井誠人 青山愛華 山下将大)

1. 背景

津波震災
マニュアル

2001年 名取市



■ 東日本大震災による被害

死者：名取市内911人（宮城県全域 約10000人）

死因：津波が主

「津波が来るとは思わなかった」

“公助”の限界・近助が必要

2. 対象敷地（名取市閑上地区）について



閑上小中一貫校



災害公営住宅



閑上公民館公園

<居住が可能なエリア>



・・・公共施設



・・・緑道、ポケットパーク、公園



・・・嵩上げ区域

・従前のまちに比べ公共的な外部空間が拡充された



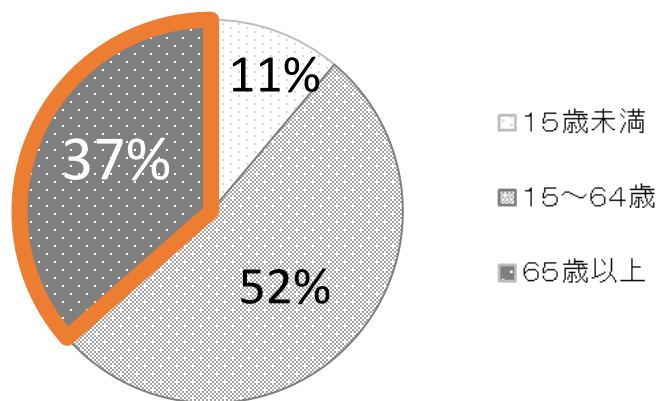
まだ活発な活用がされていない



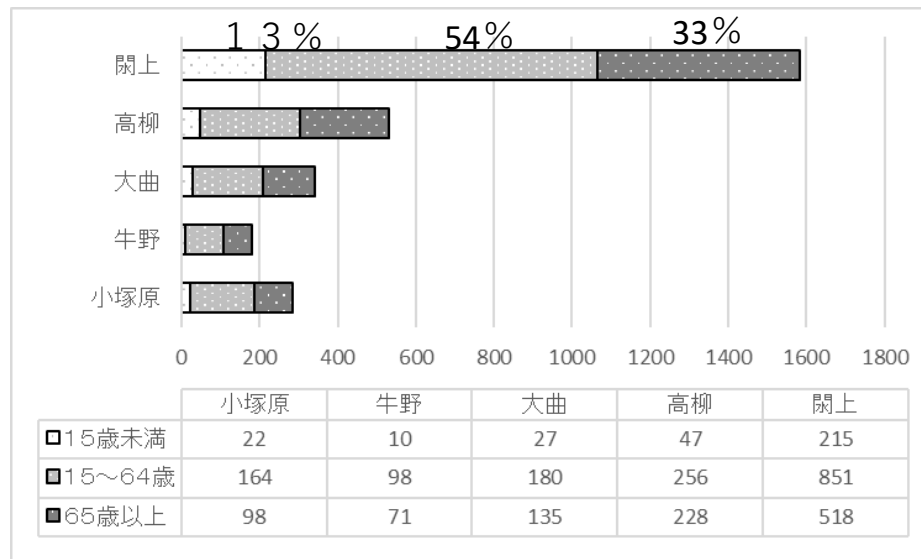
活用できる可能性がある

3. リサーチ

関上地区全体 年代別割合（2019.11時点）



関上地区 各地区の年代別割合（2019.11時点）



・ 3人に1人は65歳以上

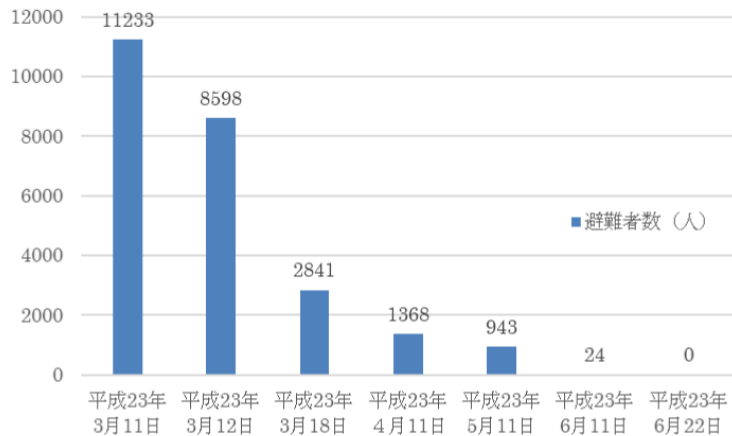
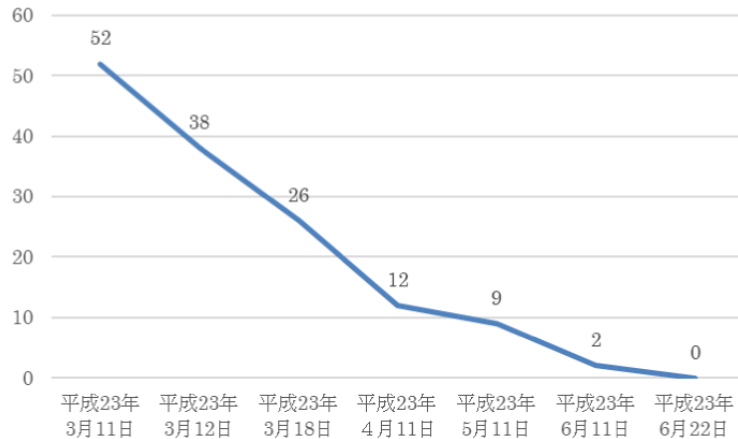
・ 地域の担い手の高齢化 が懸念される

出典：名取市人口統計データより発表者作成

震災により、従来あった地域コミュニティも壊れてしまった・
被災した場合、生きるために地区全体で助け合う必要あり
東日本大震災時は炊き出しを関上地区で行えるようにしなければならない

3. リサーチ

①避難所・避難者数の推移



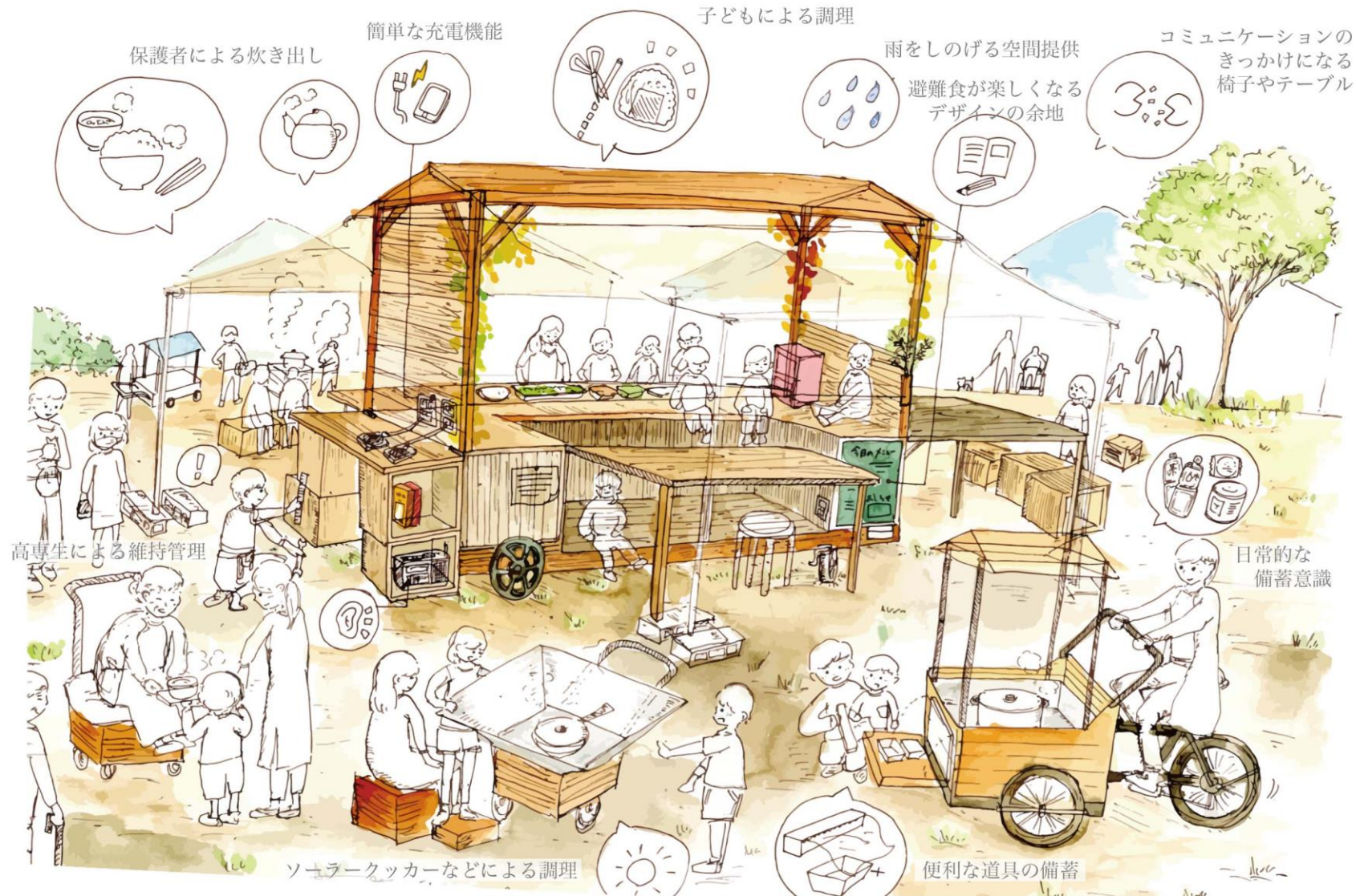
給水車の様子

避難者数は一時は**11000人**を上回ったが、電気と水道の復旧により自宅へ戻る傾向が見られた。市域の半分以上が断水し、電気は**3～4日**以上、都市ガスの復旧には**3週間**を要した。

生活インフラが停止しても生活が続けられるようにする普段からの備え・工夫が必要

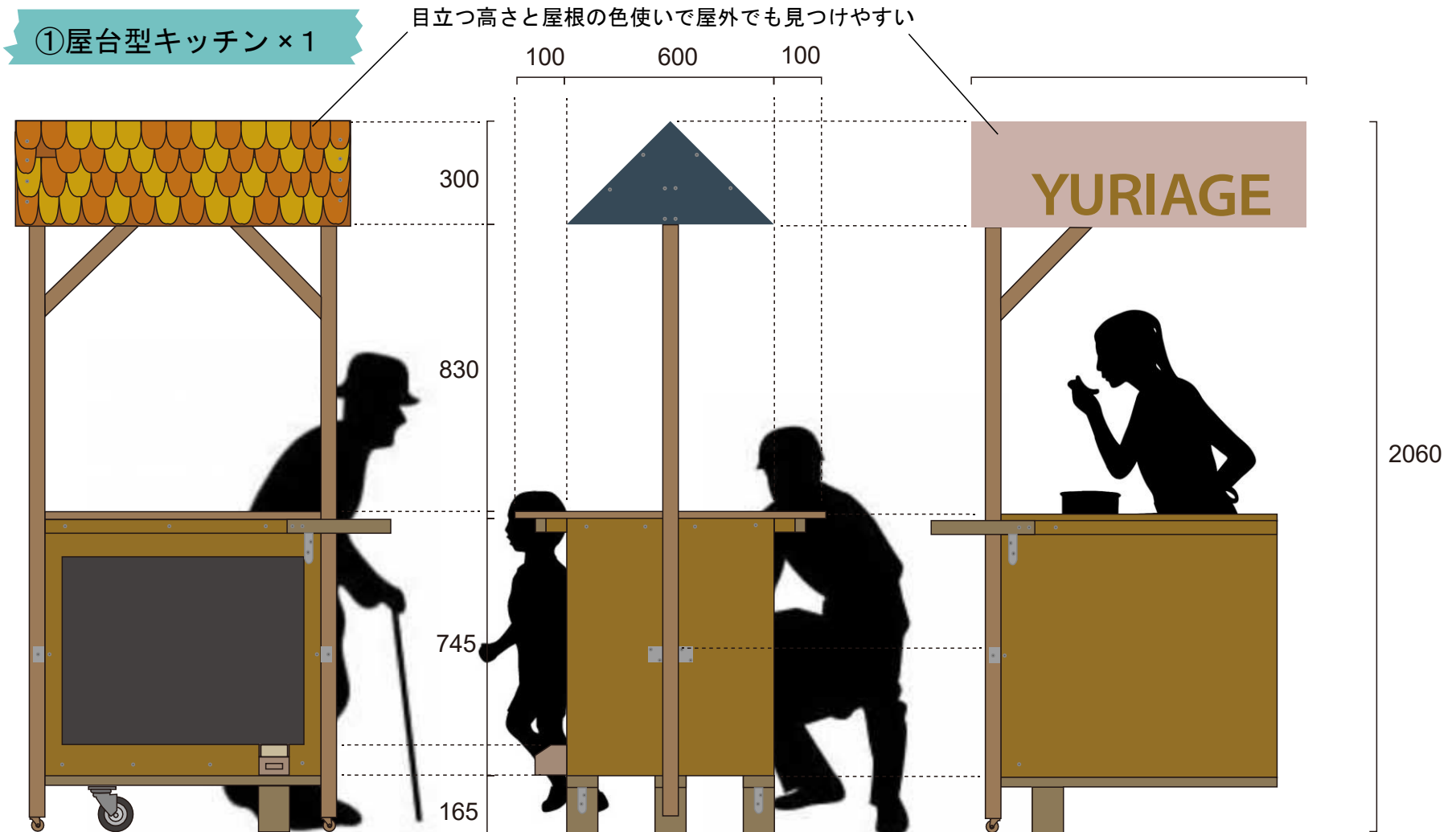
4. 初期アイデア

日常から変えていく、大人も子どももわくわくするようなモバイルキッチン



5. アイデア実証

製作したモバイルキッチンを開上中央町内会で使用、屋外・屋内両方での使用を想定
※（調理器具と食材は事前に研究室で準備）

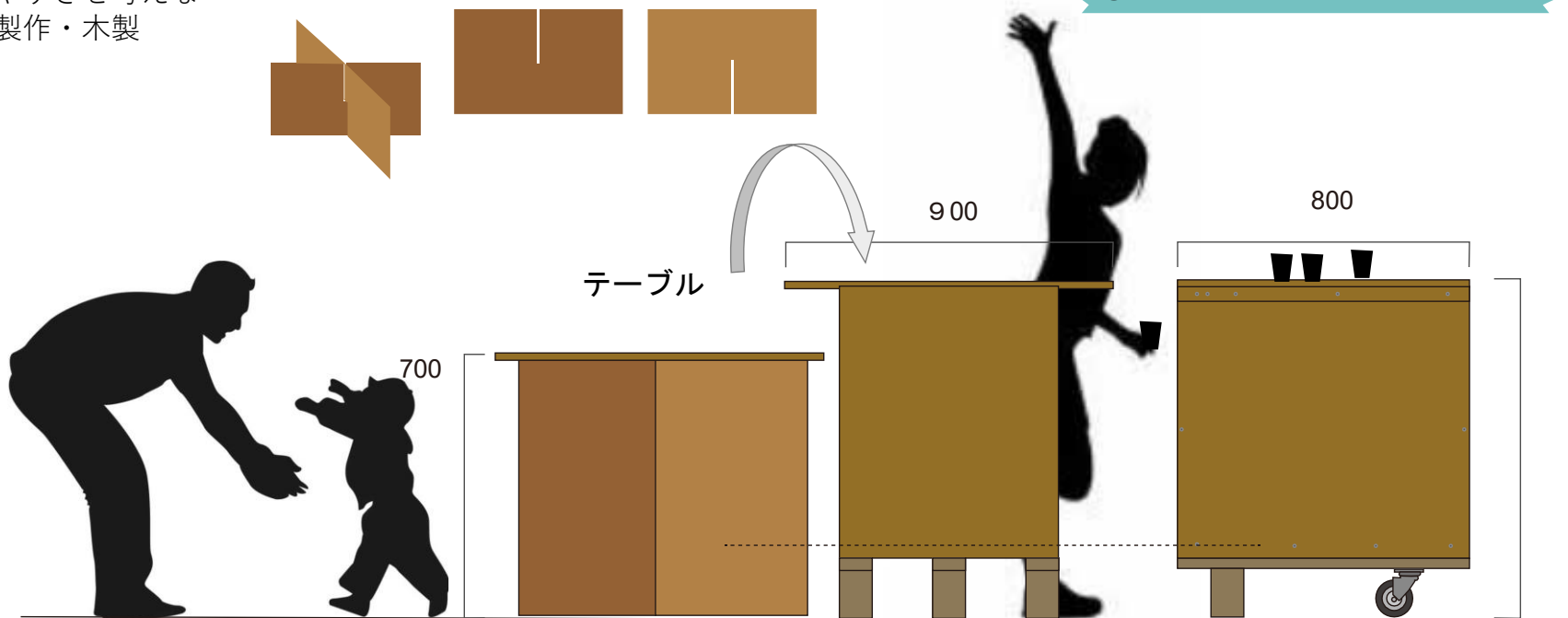


黒板塗装：ここにメニューやメッセージを書き込めます

5. アイデア実証

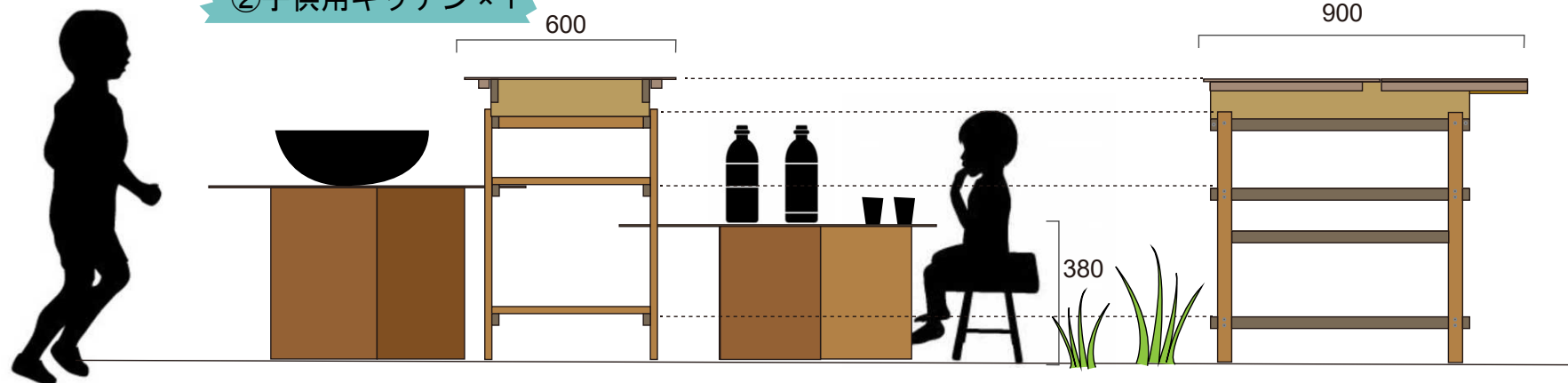
使いやすさを考えながら製作・木製

③テーブル収納型調理台 × 2



②子供用キッチン × 1

パーツを分解して人の手で持ち運び可能 使用用途に合わせて板の高さを変えることができる



6. 結果



- ・ 学生と一緒に調理などしたい
- ・ 今回実際に提案し調理した防災食について知りたい、作ってみたい
- ・ 移動式の家具を町内会に配置することに関心を示す

7. まとめと今後の展望

①「防災」ということばだけでは地域の人に敬遠されがちだが、学生が集会所や公民館など公共空間を使い防災に関するイベントを住民の生活に即した内容に変換して実施していくことで、地域防災力を引き出すきっかけになることが示唆された

②地域コミュニティを活性化させる起爆剤として、また震災の記憶を風化させないためにも、定期的に今後も地域で継続して活動を行っていく必要がある

第10号

第10号

2020年(令和2年)1月22日(水曜日) みやぎ

B (16)

どこでも移動キッチン

仙台高専名取の学生製作

いのちを
地域守る

仙台高専名取の学生が災害発生時に備え、移動式調理台「モバイルキッチン」を製作した。全国の高専生らが防災・減災のアイデアを競う「地域防災力向上チャレンジ」の1次選考を通過した企画で、3月9日の最終審査会で成果を発表する。

手掛けたのは、坂口大洋教授の研究室で建築計画を学ぶ専攻科2年加藤春奈さん(21)ら5人。高さ70センチ、幅80センチ、奥行き70センチの調理台3台のほか、高さ1・8メートルの屋台風に仕上げた調理台などもある。組み立てが容易で、手軽に持ち運べる



モバイルキッチンを活用した調理イベントを開いた学生ら

容易に組み立て ◆ 備蓄品おいしく

よう工夫した。18日は名取市関上公民館で、モバイルキッチンを活用した調理イベントを実施。「備蓄食料に手を加え、おいしく食べやすくする」ことを目指し、缶詰などをほし」と話した。

使ったフルーツボンチやサラダ、バスタを作った。来館者にも振る舞った。加藤さんは「町内会の集会所などに備え、日常的に使って災害時にも役立ててほしい」と話した。

みやぎ

街ひと